

薬剤師確保とウェルビーイング

日本病院薬剤師会理事
岩手医科大学附属病院薬剤部長・教授
工藤 賢三 Kenzo KUDO



医師の働き方改革、タスクシフト・シェアが進むなか、病院薬剤師の確保は私たちの喫緊の課題となっています。日本病院薬剤師会による厚生労働省、病院団体等への積極的な働きかけにより、薬剤師偏在指標の公表や薬剤師確保計画ガイドライン活用の通知に至り、また、第8次医療計画に病院薬剤師の確保が盛り込まれるよう各都道府県の病院薬剤師会と連携を取りながら継続的な取り組みがなされております。今後、各都道府県の医療計画に、偏在指標是正のための病院薬剤師の具体的な目標数と確保に向けた施策が盛り込まれ、着実に取り組みが進むものと期待しております。

薬剤師確保のための調査・検討事業報告書によると病院薬剤師不足・偏在への対応策として、経済的な対応、制度的な対応、人材育成と活用、情報提供・アピール、業務のやりがいの向上、職場の魅力向上（勤務条件・環境の改善）などが示されており、薬剤師確保計画ガイドラインでも同様な観点での施策例が記載されております。近年、ウェルビーイング（well-being）という言葉を目にするようになりました。ウェルビーイングとは、個人の権利や自己実現が保証され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念であり、幸せ、健康、福祉を包括しています。ウェルビーイングでは心身ともに健康であることが重要で、自分が幸せだと感じる人は、生産性も創造性も高く、組織に良い影響をもたらすことがわかっています。政府や自治体など行政の施策や企業経営、働き方改革などでもその考え方が注目されています。病院薬剤師不足・偏在への対応は、捉え方ではウェルビーイング向上への改善を求めていることにもなります。働く薬剤師が如何に健康で幸せと思えるかが重要なポイントになり、仕事に対する満足感、やりがいなどは、ウェルビーイングと相関することが知られております。薬剤部門などの対応だけでは改善できないことも多くあることは承知しておりますが、人材育成や活用、キャリア支援、やりがいの向上、職場の魅力向上などは考え次第で改善可能であると思っております。今後、都道府県の病院薬剤師確保に向けた施策と呼応することが求められると思っておりますので、各施設でできることから一歩ずつ改善し、魅力ある職場としてアピールいただければと思います。是非、ウェルビーイング向上の観点で一度業務や職場環境を見直してみてもはいかがでしょうか。

現在、専門薬剤師認定制度委員会委員長を仰せつかっております。5領域合計で約2,600名の認定薬剤師が、また、約500名の専門薬剤師の方々が臨床の第一線で専門性の高い職能を発揮していただいております。専門薬剤師制度の創設から長きにわたり医療に貢献していただいたことで、多職種医療チームでの役割や診療報酬においても評価されるに至っております。今後もより良質の医療を提供するという社会的要請に応えるため、やりがいをもって魅力ある活動をしていただくため、専門薬剤師認定制度を意義あるものとし、認定・専門薬剤師を継続して養成して参りたいと考えております。当委員会の活動にもご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。